

磐梯高原地域おこし協力隊 令和7年度意見交換会 方針まとめ

- 時間をさらに効率化し、隊員同士の意見交換の充実を図る。
 - 各町村の現役隊員が「どう地域に貢献できるか」に基づくテーマ設定を重視。
 - 行政職員や協力隊 OB/OG からの意見交換もでき、地域全体での連携を強化する。
-

令和7年度意見交換会では、引き続き協力隊員の成長と地域活性化を目的に、実効性のある議論と交流を深める場として運営を進める意見がでた。

目的

- 地域おこし協力隊員が自身の活動を振り返り、他地域の取り組みを学びながら活動のブラッシュアップを図る。
 - 3町村（北塩原村・磐梯町・猪苗代町）の共通課題を議論し、地域全体の発展に向けた具体的なアイデアを模索する。
 - 現役協力隊員、協力隊 OG/OG、行政職員の繋がりを深める場を提供する。
-

全体方針

1. 形式の改善

- 各町村の代表が発表する形式を採用（発表時間 10 分以内）。
- グループディスカッションの時間を十分に確保（30 分＋発表者との意見交換 10 分）。
- 資料作成やテーマ設定を事前に簡素化し、準備の負担を軽減。
（フォーマットの作成）

2. 活動のブラッシュアップ

- 自身の活動内容を共有し、他の地域の事例や意見を参考に改善点を明確にする。
- 他の地域活動を聞くことで、視野を広げ、客観的な視点を得る。

具体的な進行案

① 代表者発表（10分／人）

- テーマに基づく資料を用意（フォーマットを簡素化）
内容例：
 - 活動内容（又は卒隊後に向けた活動内容やOB/OGの現在について）
 - 現在の課題
 - 相談したいこと・意見が欲しい点
- 自己紹介は省略し、活動内容や課題、意見が欲しい事に集中した内容。

② グループディスカッション（30分）

- 代表者が提示した課題について、グループごとに意見やアドバイスを出し合う。
- メリット： 近い距離で具体的な意見交換が可能。

③ 意見共有（10分）

- ディスカッションの内容を代表者にフィードバックし、活動の改善に役立てる。

課題

- 事務局の負担軽減が必要。（事務局はなし。テーマは統一させる）
 - グループ分けの際、ミッションや参加人数差がある場合の調整が必要。
 - 前年度はディスカッション時間が短く、深い議論ができなかった。
 - 3つのグループに分かれて、さらに深い議論に繋げるパターンも検討。
-